

天理市

天理駅周辺地区まちづくり基本計画

令和7年1月更新

1 天理駅周辺地区まちづくり基本計画策定の背景

(1) 計画策定の背景・目的

天理駅周辺地区は、本市の市街地中心部に位置し、天理駅はJR桜井線と近鉄天理線が接し、乗客数1万人弱の交通結節点となっている。しかし、本市の人口減少に伴い、天理駅の乗客数は年々減少しており、天理駅前広場はイベント時以外、閑散としていた。

こうした状況を踏まえ、天理駅周辺地区を日常から人が集う空間として、本通りに繋がる動線を賑わせるとともに、市外からの訪問者を迎える玄関口として、天理の魅力・豊かさを発信する場に生まれ変わらせることを目指し、平成26年10月に県内39市町村の第1号として「奈良県と天理市とのまちづくりに関する包括協定」を締結し、県・市が連携・協力して天理駅周辺地区を核とした賑わいの創出に取り組むことにより、当該地区の持続的発展及び活性化を図ることを目的として平成28年3月に「天理駅周辺地区まちづくり基本構想」を策定した。

その後、この「天理駅周辺地区まちづくり基本構想」の実現に向け、地域住民・民間事業者・行政等の幅広い関係者が相互に連携しながら、協働で本地区において効率的・計画的に事業の展開を図ることを目的として、令和2年1月に「天理駅周辺地区まちづくり基本計画」【平成31年～令和5年】を策定し、事業を進めているところである。

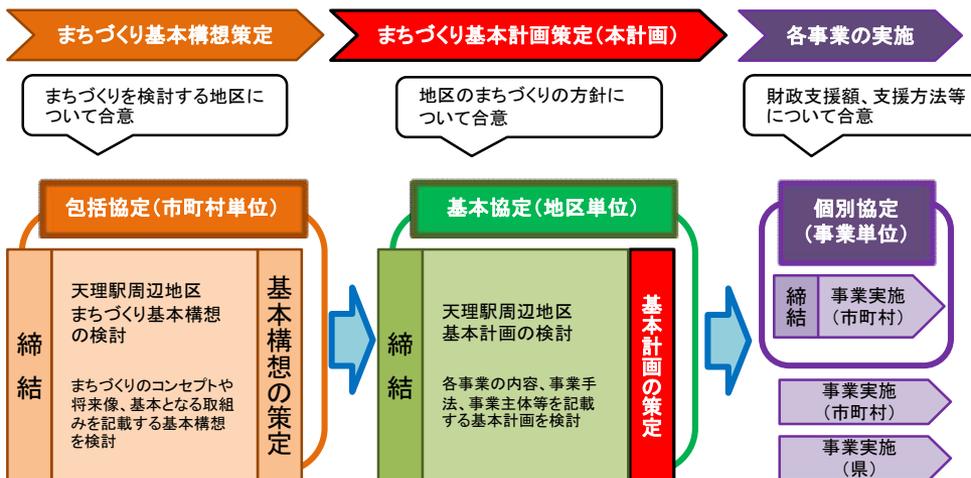
この間、天理駅前広場「コフン」と、令和4年3月21日に開村した「なら歴史芸術文化村」を拠点として、複合的な交流の創出を図ってきたが、さらなる賑わい、支え合いを創出する取組が求められている。

こうした状況の中、基本計画策定から5年の経過を迎えるにあたり、計画全体の進捗状況や目標の達成状況、社会情勢の変化等を踏まえ、引き続き天理駅周辺地区において事業を展開していくため、基本計画を更新する。

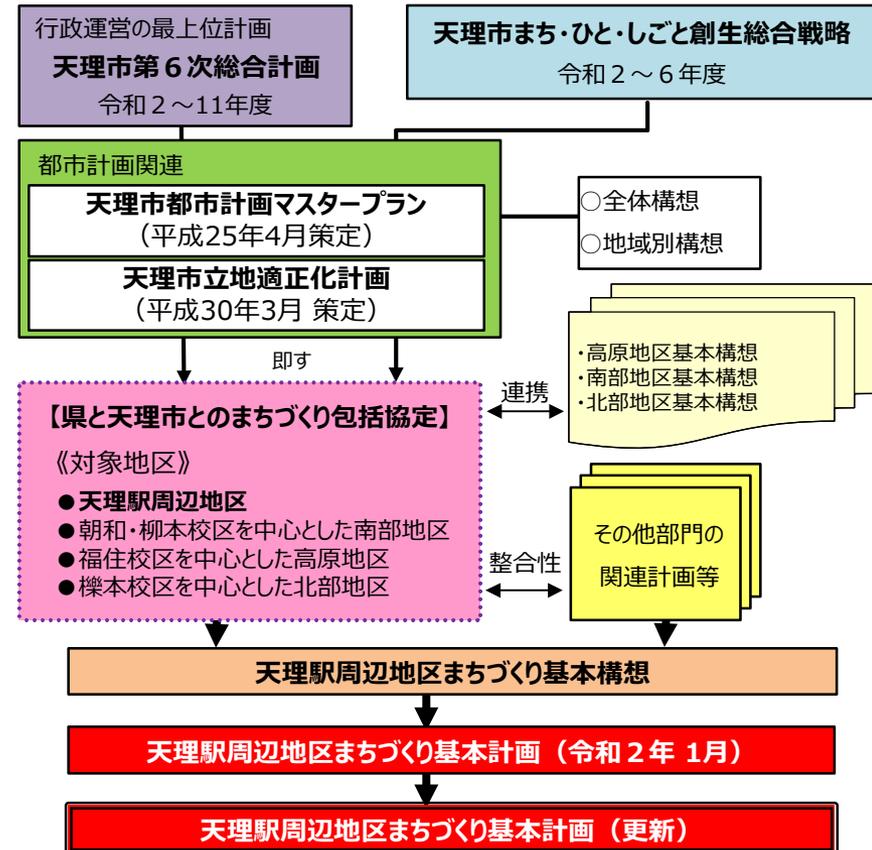
■奈良県との協定に関する経緯

平成26年10月	奈良県と天理市とのまちづくりに関する包括協定締結
平成28年 3月	天理駅周辺地区まちづくり基本構想 策定
平成28年 3月	天理駅周辺地区のまちづくりに関する基本協定締結
令和2年 1月	天理駅周辺地区まちづくり基本計画 策定

■連携協定の一般的な流れ

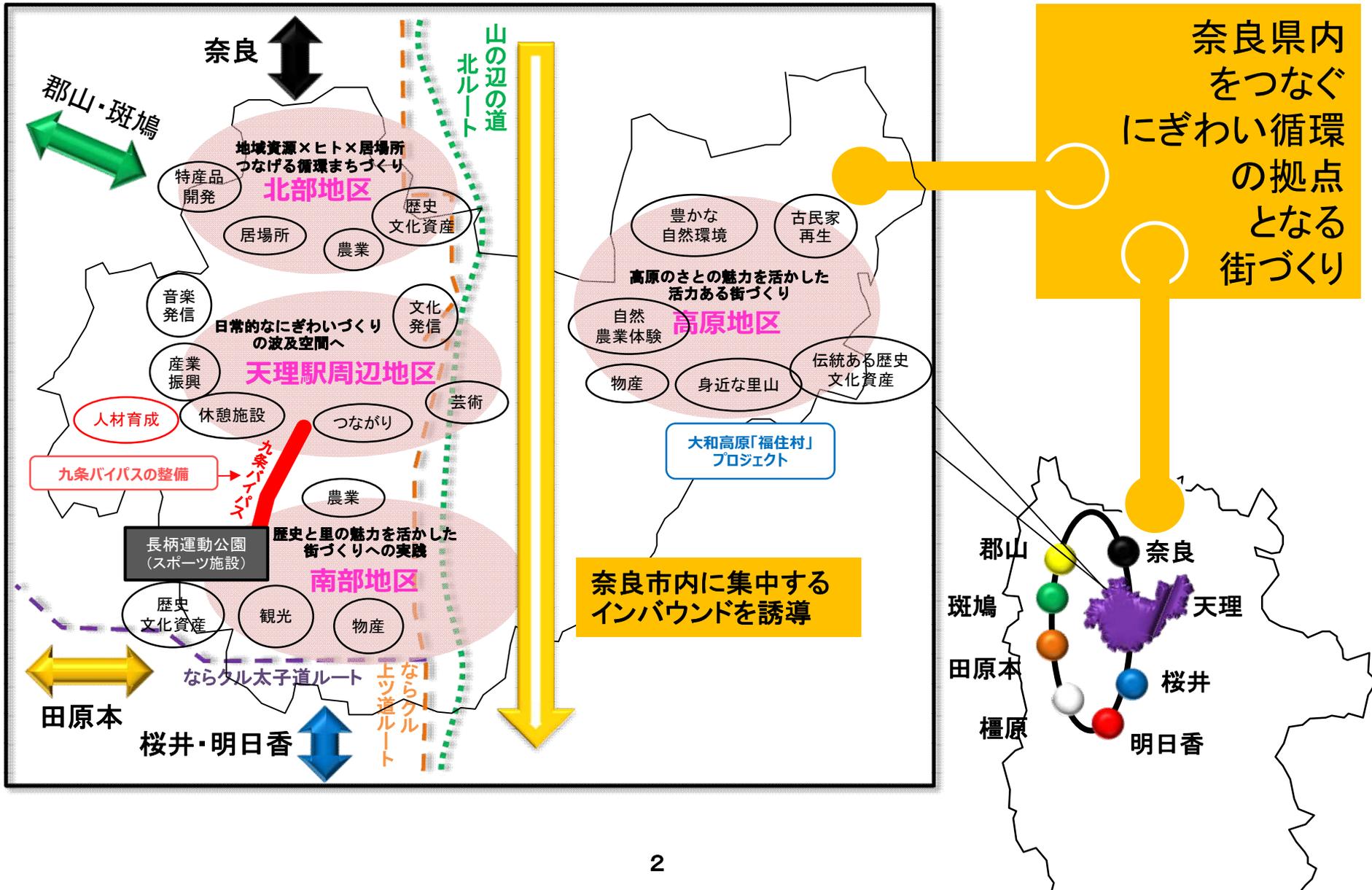


■基本計画の位置づけ



(2) 天理市が目指すまちづくりの方向性

天理市×周辺市町村 にぎわい循環 MAP



(3) 基本計画策定後の経過

2017年

2018年

2019年

2020年

2021年

2022年

2023年

天理駅前広場コフファンがオープン



Art-Space TARN



モリノゲストハウス



なら歴史芸術文化村が開村



アーティスト・イン・レジデンス



天理駅前広場コフファンがリニューアル

02

天理駅前広場
コフファン

8月1日

天理大学 × mont-bell

Grand Open

▶天理大学 × モンベルストア(アウトドアショップ)
●アウトドア用品をはじめ、山の遊びがデザインされた服装やシューズも販売
●有線観光のツアーやイベントも企画される予定

営業時間 10時～19時
定休日 年中無休

▶カフェ (TEN.TEN.CAFE天理コフファン側)
●地産農産物を使用したメニューをお楽しみいただけます
●サテライトキャンパスで学んだ学生が考案したメニューの提供

営業時間 11時～17時
☆8月4日まで10時オープン
定休日 不定休

03

01

▶天理大学サテライトキャンパス

▶天理大学 i CONNECT Shop & サテライトキャンパス オフィス

- 市内を中心とする特産品や天理大学グッズを販売
- 天理大学の学生が選ぶ「天理のええもん」を学生自身が販売します
- ※専断など、大学関連施設の情報発信

営業時間 10時～17時
定休日 第1・第3火曜日

▶天理大学サテライトキャンパス

観光と農業・食に関する連携を行っています。インターンシップも実施したプログラムとなっており、一農の市民感覚でも学生と一緒に科目履修生(リカレント教育)として等扱します。

(注) リカレント教育については、天理大学ホームページを確認ください

▶観光案内コーナー
サテライトキャンパスで学んだ学生が実務の場として観光コンシェルジュとして活躍中です。

天理市が「SDGs 未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」に選定されました！

SDGsの達成に向けて、経済・社会・環境の3側面の統合的取組による相乗効果、新しい価値の創出を適して、持続可能な開発に取組む自治体として、内閣府から「SDGs未来都市」に選定されました。

今年度は、24自治体が選定され自見地方創生担当大臣から選定証が授与されました。奈良県では、十津川村、生駒市、三郷町、広陵町に次いで5例目です。

またSDGs未来都市の中から、地域における自律的好循環の形成が見込める、特に先導的な事業として「自治体SDGsモデル事業」に選ばれました。



(4) 天理駅前広場「コフン」のリニューアルについて

天理駅周辺地区においては、天理駅前広場「コフン」オープン以来、子どもからお年寄りまで多くの人でにぎわっている。さらに、令和6年度より天理駅前広場における産・官・学連携プロジェクトとして、天理大学・モンベル共同体と連携し、観光・農業に関する研究活動や人材育成の場として新たな活用を行う。

【天理駅前広場「コフン」の役割】

● 継続的な賑わいを創出する複合交流拠点施設

天理駅前広場「コフン」は、イベントの開催や観光・ものづくり、農業情報の発信、近隣住民の憩いの場として活用されることで、市の玄関口における継続的な賑わいを創出し、周辺地域への賑わいの波及・循環を図っている。

● つながりの場

天理駅前広場「コフン」は、多様な主体のつながりの場。また、「支え合いのまちづくり」の実現を目指し、地域の課題解決のモデル事業を天理駅前広場「コフン」で実施することで、共通課題の解決手法を共有するとともに、様々な施策・取組を市内各地域へ波及させていく。



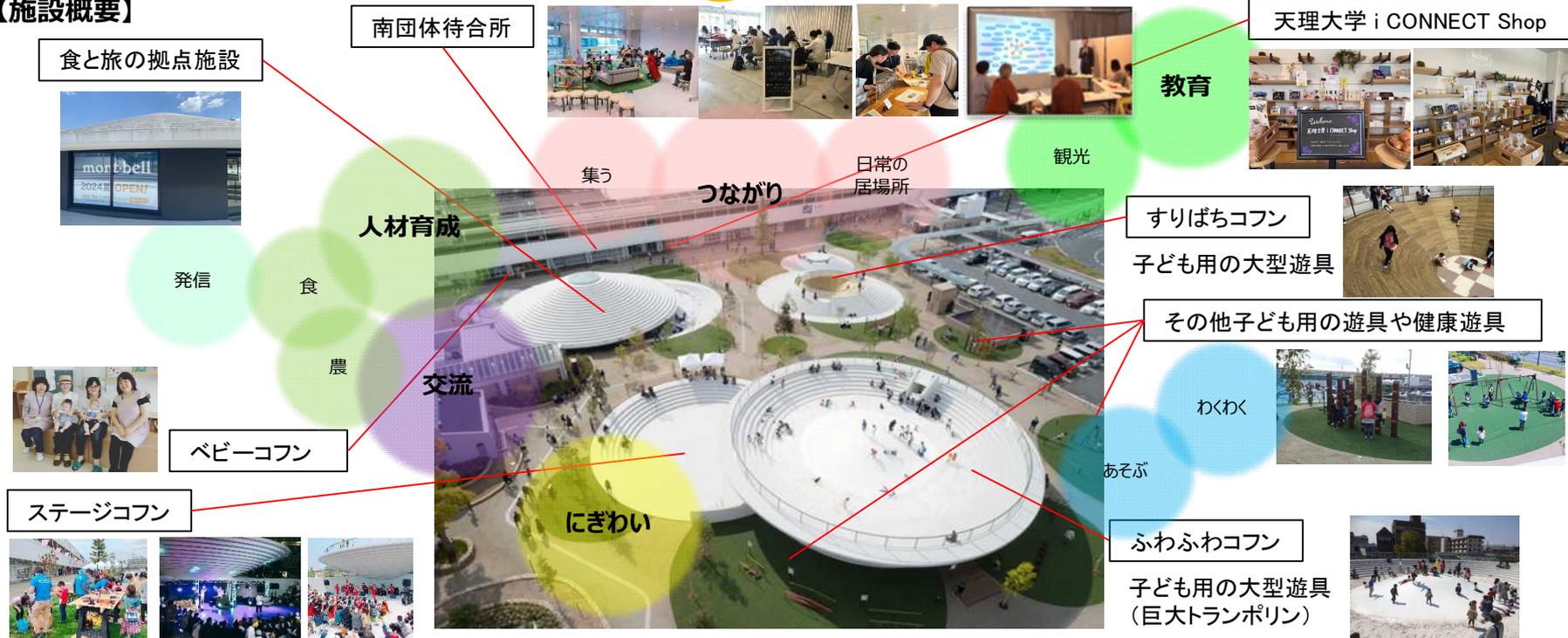
【施設概要】

● 天理大学サテライトキャンパス

天理大学は、天理駅前広場南団体待合所等において「天理大学サテライトキャンパス」を設置・運営する。南団体待合所は、天理大学の農業及び観光に関する講義やグループディスカッションの場として活用することによって、天理大学生が農業と観光の学びを深められるようにするとともに、市民にも授業を開放しリカレント教育の機会を提供する。
※リカレント教育…社会人が必要なタイミングで教育を受けること

● 食と旅の拠点施設

天理大学は、(株)モンベルと共同事業体として、インフォ&ラウンジコフンにおいて、飲食スペース(カフェ)と売り場(アウトドアショップ)を設け、天理を起点とする山の辺の道を中心とした周遊観光のためにアウトドア用品の販売や地元農産物を使ったメニューの開発を行う。さらに、南団体待合所においては、天理大学生が観光コンシェルジュとして観光客支援を行うことで、地域観光資源について実地に学び、地域事業に従事しながら将来に向けた地域の農業と観光に貢献できるノウハウを身につけることを目指す。



2 天理駅周辺地区のまちづくりのコンセプト

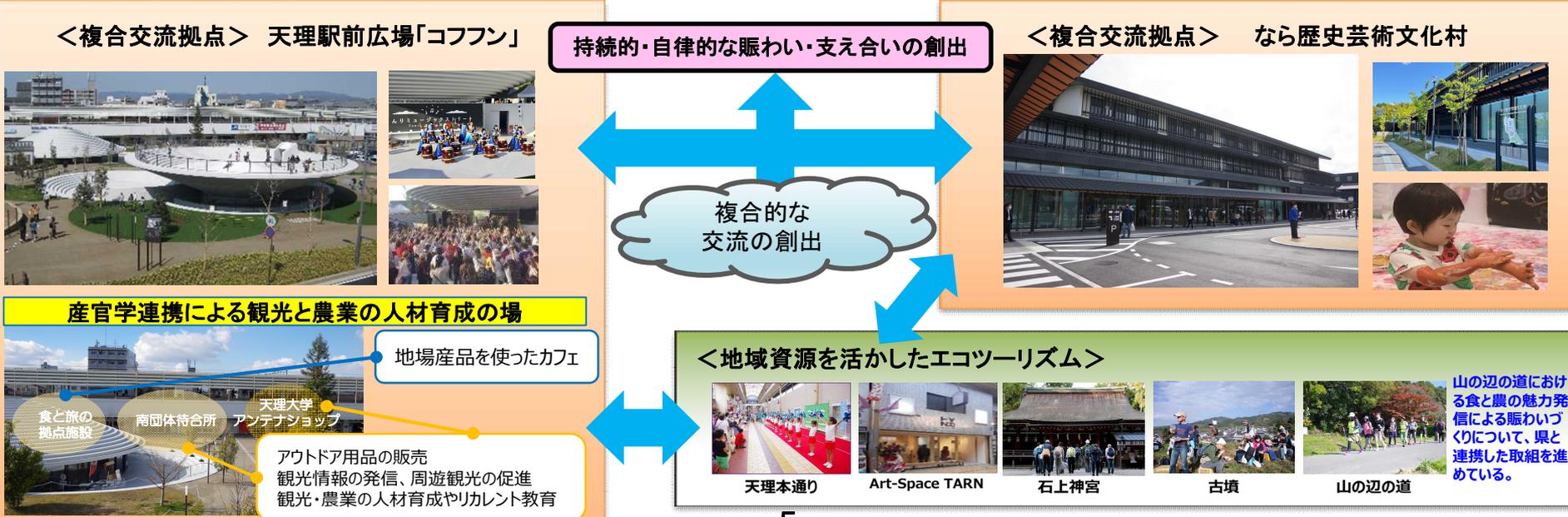
天理駅周辺地区では、平成29年4月に天理駅前広場「コフン」等が整備され、市内外から多くの方々が訪れるとともに、地域の方々が主催のイベントを中心に年500件近くのイベントが開催され、新たな賑わい・支え合いが創出されている。また、これらのイベント等により、文化、芸術、スポーツや福祉などの多種多様な分野の方々の交流が生まれ、それが新たなイベント等の賑わい・支え合いを創出するといった好循環が形成されつつある。また、天理駅周辺地区では、奈良県の強みである歴史文化資源を活用し、文化・芸術振興の取り組みに加え、観光・産業振興、まちの賑わいづくりなど政策間連携を図ることで地域の魅力を高め、地域活性化を実現するため、先駆的な拠点として、令和4年3月21日に「なら歴史芸術文化村」が開村した。「なら歴史芸術文化村」では、日本で初めてとなる文化財4分野の修復や展示を行う文化財修復・展示棟、アーティスト交流、幼児向けアートプログラム、音楽や伝統芸能を体験できる芸術文化体験棟、道の駅やショップ、レストランが入った交流にぎわい棟、観光案内を行う情報発信棟、民設民営の宿泊施設等が整備され、芸術家、工芸家、文化財修理技術者、アーティスト、農産物等生産者、地域の方々、観光客など多様な分野の複合的な交流を生み出すことにより、新たな芸術・文化や賑わいが創出されはじめている。

さらに、令和6年度より天理駅前広場における産・官・学連携プロジェクトとして、天理大学・(株)モンベル共同事業体が、大学生と協働して地域農業の付加価値化を目指した飲食の提供や地域内周遊観光の促進に向けた事業を実施する。天理駅南団体待合所を引き続き市民の憩いの場として開放しつつ、天理大学のサテライト・キャンパスとしても位置付ける。観光や農業について単位を取得できる講義を行い、その履修者が観光コンシェルジュとして観光案内拠点を運営し、広場内のアウトドアショップやカフェでインターンを行い、実践的な育成プログラムを実施する。

また、コフンでできた賑わい・支え合いの好循環の流れを継続的なものとし、地区全体に波及させるために、本通りから天理教教会本部、天理大学、石上神宮、山の辺の道へと続くエリアにおいて、産官学と市民が一体となって新たな魅力を創造することが重要である。これらの周辺にある食、泊、アクティビティ、文化、農、自然などの地域独自の資源と結びつけ、地域内の経済活動の活発化の視点で取り組むことも重要になってくる。

以上を踏まえ、これまで以上に天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」の両拠点の結びつきを強くすることを目指し、天理駅周辺地区のまちづくりのコンセプトは引き続き、「天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する」とする。

<コンセプト> 天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する



3 基本計画で定める対象地区

対象地区



4 基本計画で定めるまちづくりの取組

まちづくりのコンセプトである『天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する』を実現するため、まちづくり基本構想で定めた基本方針を基に、まちづくり基本計画の計画期間（R6～R10年度の5年間）において取り組む重点施策について次のとおり定める。

まちづくりのコンセプト

天理駅前広場「コフン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する

地区の課題

- **駅前広場が活きていない**
 - ・駅前広場全体には魅力がないため、イベント時を除いて人が「通過」するだけの場所となっている。
 - ・鉄道駅を利用する来街者の減少によりかつては「効率的な広大でフラットな空間」であったが現状は「閑散としただだっぴろい空間」へと変質している。
- **天理本通り商店街の賑わいが不足している**
 - ・商店街の空き店舗の増加により商業地域である当該地区における地域経済の縮小がみられる。
 - ・駅前広場との連携も少なく、集客力や認知度が低い。
- **観光や農・ものづくり資源のPR機能、案内サインが不足している**
 - ・市の玄関口にも関わらず、観光情報発信機能は弱く、地域の農やものづくりの発信機能は一過性のイベントにとどまっている。また人の誘導機能が欠けている。
 - ・周辺地区においても、新たに人を呼び込む取組体制がなっていない。
- **各エリアの魅力創出、エリア間のつながりがない**
 - ・駅前周辺地区内での魅力の創出、発信が少ない。
 - ・西の公園、天理駅前広場、天理本通り（アーケード商店街）を結ぶ導線が、道路およびJRによって分断されているため、人の往来がしにくい。
- **地域間、拠点間のスムーズな回遊・連携ができない**
 - ・様々な交通機能の結節点ではあるが、住民や観光客にとってまちづくりの拠点間を巡るネットワークが不十分である。
- **雇用機能が少ない**
 - ・市内の中心地であるにも関わらず、雇用機能が少なく、若者や働き盛り層の市外への流出が多い。
- **子供を産み、育てる環境、支援が充実していない**
 - ・子育て窓口が点在している等、出産・子育て面で充実した支援がなく、出生率および子供を産む女性の減少による出生数の低下を招いている。
- **高齢化を見据えた駅前環境に乏しい**
 - ・今後ますます進む高齢化を見据えて、高齢者が安心して暮らしやすい環境が必要。
 - ・天理市の中心地である駅前周辺に市民の健康づくりのための拠点が少ない。

基本構想

基本方針

- * **天理駅周辺における魅力づくり**
 - > 産業・文化発信、周遊観光など「地域のにぎわい拠点」としての機能強化。
 - > 県内一長いアーケード商店街の活性化。
 - > 市民参加の場として道路空間の活用。
 - > 集いの場、憩いの場としての公園の活用。
- * **天理のもつ観光・農・ものづくり資源の情報発信**
 - > 町の魅力をPRする多彩なイベントによる観光・農・ものづくりの情報発信の強化。
 - > 地域の特色を活かした観光・農・ものづくり資源のブランディングによる物産品等の情報発信の強化。
- * **垣根を越えた結び付き・連携の強化**
 - > 市の玄関口としてまちづくりの拠点間を結ぶ交通ネットワークの形成。
 - > コミュニティバスやサイクリング等の移動手段の多様化。
 - > 大学や関係団体、地域住民などと連携した取組の充実。
 - > エリア間の回遊性を向上。
- * **雇用の場の確保により「天理で働きたい人」の創出**
 - > 「テレワーク」等「時間」と「場所」にとらわれない新しい働き方の導入。
 - > 多様な就労環境・人材マッチングなどによる雇用促進。
- * **安心して出産・子育てができる環境づくり**
 - > 出産や子育てにかかる不安や負担を軽減できる支援の充実。
- * **高齢者が安心して、健康に暮らせる環境づくり**
 - > 高齢者が利用できる健康づくりの場の創出。
 - > 高齢者に優しい環境づくり。
 - > 地域の健康づくり拠点へのアクセス強化による、高齢者が健康づくり・介護予防に取り組める環境創出。

基本計画

基本計画における取り組みの方向性

- **継続的な賑わい・魅力の創出**
 - ・天理駅前広場「コフン」を市内の賑わいの中心拠点として、天理駅周辺地区において継続的な賑わい・魅力を創出し、地区内外への効果の波及・好循環を生み出す。
 - ・豊かな自然歴史の中で幅広いポテンシャルを秘める天理のめぐみを可視化し、天理ブランドのイメージの普及を行い天理で暮らすことの付加価値を高める。
 - ・本市がもつ様々な地域資源を活かした取組を推進するとともに、観光・農・ものづくり等の情報発信の強化を図り、地区内における周遊観光を促進する。
 - ・「スポーツのまち天理」として、各種スポーツの体験イベントの開催や市内トップアスリートと触れ合える機会を創出することで、新たな交流活動の促進、スポーツ観光の充実を図る。
 - ・空き家の積極的な利活用を図る。
 - ・天理大学サテライトキャンパスとして、観光と農業の講義を行うとともに、(株)モンベルと連携した観光案内や飲食店経営等の実践的な学びを通して、観光人材、農業人材を育成する。
 - ・九条バイパスの整備により、健康づくり拠点である長柄運動公園と天理駅のつながりの強化を図る。
- **なら歴史芸術文化村を活かした取組の推進**
 - ・賑わい拠点である天理駅前広場「コフン」と芸術文化拠点である「なら歴史芸術文化村」の、2つの拠点間の連携をより強化する。
 - ・天理ブランドの構築とも連携し、市内各所への周遊を促すことで、「芸術文化に会えるまち」というイメージ形成を目指す。
- **つながりと支え合いのまちづくり**
 - ・働き盛りや子育て世代及び高齢者など、多世代が住み慣れた地域で安心して暮らし続けたいと思えるまちづくりに向けた取組を推進する。
 - ・地域に密着し、共通課題である子ども、高齢者を対象として、支え合いで地域課題を解決する施策をパッケージで推進する。

5 天理駅周辺地区 事業一覧

まちづくり基本構想の実現に向けて取り組む事業について、5年以内に完了または着手する具体的な取組に加え、それ以降の将来的な取組も含めて以下に示す。

■ 継続的な賑わい・魅力の創出

 継続的に実施する事項
  事業前に実施する事項

事業名		ハードソフト	事業主体	事業内容	R6	R7	R8	R9	R10	R11～	事業手法	
賑わい交流拠点の整備	1	天理駅前広場「コフフン」整備事業	ハード	市	天理駅前広場に公園スペースを創出し、子育て世代から高齢者まで多世代の市民が集い、交流し、市外からの来訪者に本市の魅力を発信することができる施設を整備する。【H29.3整備完了】							事業完了
	2	天理駅前広場「コフフン」賑わいづくり事業	ソフト	各種団体 事業者 市	天理駅前広場「コフフン」において、賑わいを創出するための市民や民間主体のイベント等の開催・運営を支援し、市の玄関口における継続的な賑わいの創出を図る。	賑わいを創出するイベントの企画・運営の支援						
継続的な賑わいの創出	3	コフフンマルシェ事業	ソフト	事業者 市	天理大学及び(株)モンベルと連携し、人材育成プログラム履修生が、地域とともに天理市の新たな魅力の発掘・発信や、定期的なマルシェの開催、新商品開発・販路拡大を行う。	コフフンマルシェの開催					●デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	
	4	若手農業者団体による直売イベント事業	ソフト	事業者 市	農業の担い手の育成や振興を図るため、農業者団体による、定期的な直売イベント等を開催する。	直売イベントの開催						
円滑な移動の確保	5	バリアフリー化の推進事業	ハード	市	中心市街地においては、バリアフリーやユニバーサルデザインを十分に考慮し、快適に生活できる環境づくりを推進する。また、「天理市バリアフリーマスタープラン」及び天理駅周辺からなら歴史芸術文化村までの動線を考慮にいった、「天理市バリアフリー基本構想」について検討する。	天理市バリアフリーマスタープラン及び基本構想の検討		天理市バリアフリーマスタープランの策定		・天理市バリアフリー基本構想 ・特定事業計画の策定	●地域公共交通バリアフリー化調査事業 ●バリアフリー環境整備促進事業	
	6	九条バイパス整備事業	ハード	県	バイパス整備により、健康づくり拠点である長柄運動公園と天理駅のつながりの強化を図る。	設計・用地買収・整備工事					●社会資本整備総合交付金	
地域ブランドの向上	7	天理ブランド認定・販路拡大事業	ソフト	市	地域資源を活用した「天理らしさ」を有する産品等の発掘・認定、市内外での販路開拓・PRを展開することで、既存のサービスや商品の付加価値を最大化し、地域内における生産性の向上や経済循環に繋げる。	ブランディング事業の拡大(認定事業等)						
					天理ブランド産品の販路開拓・PR							
魅力ある緑地空間の確保	8	街路樹・植栽の維持管理事業	ソフト	市	街路樹・植栽による魅力ある緑地空間の確保など、本市の玄関口並びに都市の骨格にふさわしい街路空間の形成に努める。	街路樹・植栽の維持・充実						
スポーツのまち天理の促進	9	天理アスリート応援プロジェクト事業	ソフト	市	市内のトップアスリートたちを応援する機会を創出し、直接ふれあえるイベントを実施することで、より市外からのスポーツファンを呼び込み、新たな交流活動の促進につなげる。また、周辺の商店街や観光スポットへの周遊を促すことで、スポーツ観光の充実や市をPRする機会の創出、更なる人の流れを生み出し地域振興につなげる。	パブリックビューイングの実施						
	10	スポーツ体験イベント事業	ソフト	市	天理駅前広場において、モルック体験会やスロージョギング教室等、年齢を問わず誰でも参加できる各種スポーツ体験イベントを実施し、まちの賑わいの活性化を図る。	各種スポーツ教室の実施						

事業名		ハードソフト	事業主体	事業内容	R6	R7	R8	R9	R10	R11～	事業手法
移住・定住の促進	11	空き家の利活用推進事業	ソフト	市	天理駅周辺地区においては、山の辺の道周辺及び天理駅前市街地(旧街道)を中心に、空き家の利活用を推進するため、空きバンクの運営やイベントによるPR等を実施する。	空き家バンクの運営					
						イベントによるPR	モデルケースの創出	空き家の利活用			
地区内における周遊観光の促進	12	周遊促進のための情報発信事業	ソフト	市	2025年の万博を控え今後もインバウンド需要の拡大や観光需要の高まりが予想される。10言語に対応した観光サイト「JFM」を活用するため、名刺サイズの観光カード作成し、天理市の観光を広く周知する。また廃止となった旧浴場を民間事業者へ売却の上、既存建物を活用することで、近隣に位置する山の辺の道等への観光振興や情報発信を行う。	観光カードの作成					
						旧浴場公募型プロポーザル	旧浴場利活用事業				
観光・農業振興に向けた産官学連携人材育成	13	観光人材育成事業	ソフト	各種団体事業者市	事業の拠点となる天理駅前施設において、観光に関する大学生キャリア教育と市民のリカレントのための講座を開講する。また、履修者は、榊モンベルが展開するアウトドアショップや等を活用し、地元企業等と連携したインターンシップを行うことで、観光案内所の運営や効果的な情報発信を実践的に学び、将来に向けた地域に貢献できるノウハウを習得する機会を創出する。	観光人材の育成					●デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)
						観光案内					
	14	農業人材育成事業	ソフト	各種団体事業者市	天理駅南団体待合所において、これまでの市民交流の場としての機能を維持しつつ天理大学サテライトキャンパスを設置し、農業に関する科目を新設し講義を行う。また、リカレント教育として一般市民を受け入れ、学生とともに科目履修制度を利用し、農業人材育成を行う。	農業人材の育成					●デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)
インバウンド対応	15	外国人の雇用事業	ソフト	各種団体事業者市	外国人を雇用し、人材育成事業の中で観光のポイントを学生に伝え、インバウンドにも対応した観光案内の実施・サポートを行う。	外国人の雇用					●デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)
	16	観光振興事業	ソフト	各種団体事業者市	全国に多くの会員を持つ(株)モンベルの観光情報等の発信力を活かし、山の辺の道を中心とする本市の魅力を広くPRするため「フレンドエリア」に登録し、全国からの誘客を図る。 多言語対応位置情報連動型音声ガイドアプリを導入し、インバウンドにも対応した観光案内を行う。	フレンドエリア登録	フレンドエリアの充実			●デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	
						音声ガイド作成	音声ガイドの充実				
特産品の発見・創出・販売	17	特産品販売事業	ソフト	各種団体事業者市	事業の拠点となる天理駅前施設において、従来の特産品に加え、人材育成事業の中で学生が発見・創出した特産品の販売を行う。	特産品販売					●デジタル田園都市国家推進交付金(地方創生タイプ・横展開型)

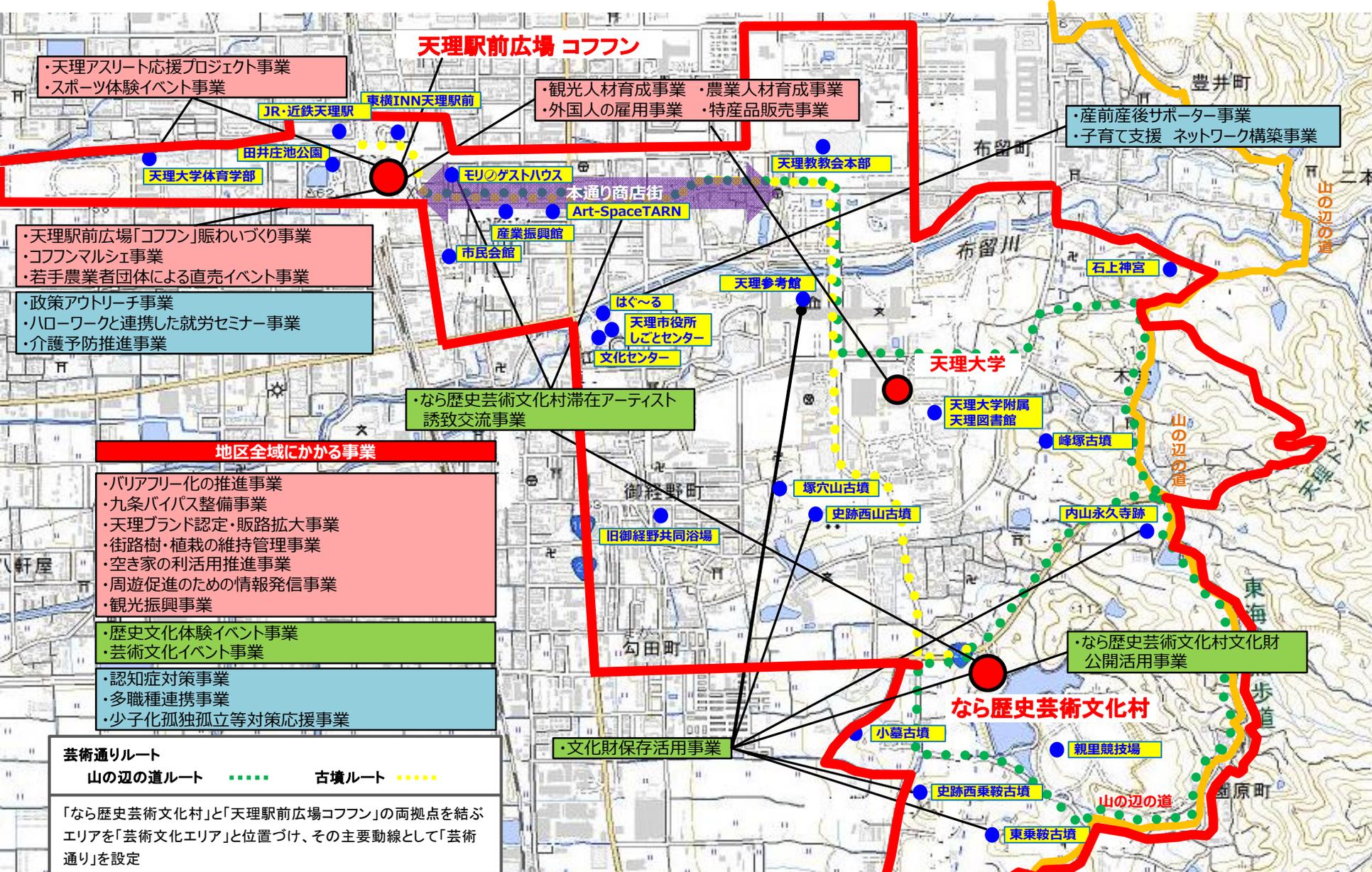
■ なら歴史芸術文化村を活かした取り組みの推進

事業名		ハードソフト	事業主体	事業内容	R6	R7	R8	R9	R10	R11~	事業手法	
芸術文化拠点の整備・運営	1	なら歴史芸術文化村整備事業	ハード	県	歴史、文化、伝統を有する奈良県が、その強みである文化資源の最大の活用を目指し、その拠点施設としてなら歴史芸術文化村を整備する。【R4.3整備完了】							事業完了
文化財を活用した地域交流の推進	2	文化財保存活用事業	ソフト	市	なら歴史芸術文化村に近接する観光・くつろぎの拠点として杣之内古墳群の保存と活用に取り組み、文化財の利活用を推進する。	コンテンツ作成、文化財のPR、イベントの開催等						
	3	歴史文化体験イベント事業	ソフト	市	天理参考館の学芸員や天理市ボランティアガイドと、なら歴史芸術文化村が連携して、杣之内古墳群や「山の辺の道」をはじめ、天理の見所や歴史文化を体験することができる体験型イベントを行う。	歴史文化体験イベント・ワークショップの実施						
	4	なら歴史芸術文化村文化財公開活用事業	ソフト	市	文化財の保存と活用の拠点として整備されるなら歴史芸術文化村において、考古遺物整理作業の公開・展示会・講演会等を幅広く展開する。	考古遺物整理作業の公開・展示会・講演会等の実施						
	5	なら歴史芸術文化村潜在アーティスト誘致交流事業	ソフト	県市	なら歴史芸術文化村で実施される「潜在アーティスト誘致交流事業」によって招聘された国内外の芸術家・作家をはじめとした様々なアーティストの創作活動に対して支援を行う。また、芸術家の滞在中に市民交流、アウトリーチ、ワークショップ等を行うと共に、成果展示会を開催することにより、地域の方々がアートに触れ親しむ機会を創出する。	(なら歴史芸術文化村と共働実施)						
なら歴史芸術文化村と連動した地域芸術文化イベントの実施	6	芸術文化イベント事業	ソフト	各種団体事業者市	天理駅前広場「コフン」から、なら歴史芸術文化村へ至るまでの本通り商店街で、店舗の空きスペースを活用し整備した芸術通り拠点施設「Art-SpaceTARN」等の利用を促進し、なら歴史芸術文化村主催の「潜在アーティスト誘致交流事業」におけるアーティスト・イン・レジデンスの展示会場として利用に加え、奈良県や他市町村と連携した施設利用をより強化し、イベント等の開催、なら歴史芸術文化村までのルートにおいて文化芸術によるまちづくり事業の拠点としてアートを体感できる街づくりを進め、なら歴史芸術文化村との相乗効果により地域の賑わいを醸成する。	アート作品を展示した周遊型イベントの実施						
					芸術文化発信イベントの実施							

6 基本計画図

● ...天理駅周辺地区の主な地域資源

— ...山の辺の道



・天理アスリート応援プロジェクト事業
・スポーツ体験イベント事業

天理駅前広場 コフパン

・観光人材育成事業
・外国人の雇用事業
・農業人材育成事業
・特産品販売事業

・産前産後サポーター事業
・子育て支援 ネットワーク構築事業

・天理駅前広場「コフパン」賑わいづくり事業
・コフパンマルシェ事業
・若手農業者団体による直売イベント事業

・政策アウトリーチ事業
・ハローワークと連携した就労セミナー事業
・介護予防推進事業

・なら歴史芸術文化村滞在アーティスト誘致交流事業

地区全域にかかる事業

・バリアフリー化の推進事業
・九条バイパス整備事業
・天理ブランド認定・販路拡大事業
・街路樹・植栽の維持管理事業
・空き家の利活用推進事業
・周遊促進のための情報発信事業
・観光振興事業

・歴史文化体験イベント事業
・芸術文化イベント事業

・認知症対策事業
・多職種連携事業
・少子化孤独孤立等対策応援事業

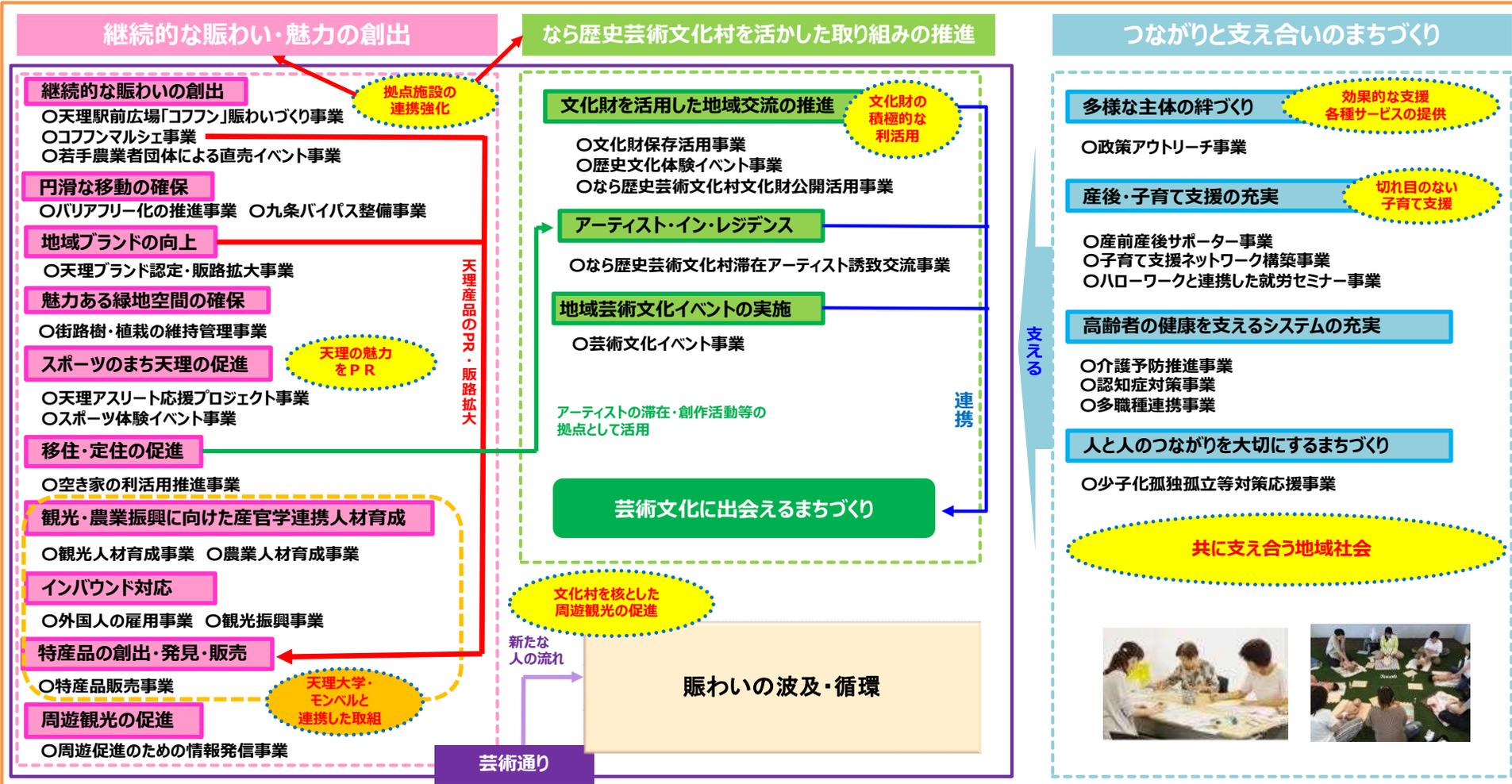
芸術通りルート
山の辺の道ルート 古墳ルート

「なら歴史芸術文化村」と「天理駅前広場コフパン」の両拠点を結ぶエリアを「芸術文化エリア」と位置づけ、その主要動線として「芸術通り」を設定

7事業推進に向けた取り組み

(1) 天理駅周辺地区まちづくり基本計画 事業相関図

天理駅周辺地区のまちづくりのコンセプト「天理駅前広場「コファン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する」の実現に向け、本基本計画における3つの重点施策として整理した事業について、幅広い関係者や各種団体が相互に連携するとともに政策間の連携を重視した取組を戦略的に進めることで相乗効果をもたらし、当該地区内における賑わいと魅力の創造を図り、その効果を市内外へ波及・循環させる。



天理駅前広場「コファン」と「なら歴史芸術文化村」を中心に複合的な交流を創出することにより、持続的で自立的な賑わい・支え合いを創出する

(2) 天理駅周辺地区まちづくり基本計画運用のための組織体制

天理駅前広場「コフン」を中心に、多世代交流や文化・芸術・スポーツの発信拠点としての機能に加え、産官学連携による観光と農業の人材育成の場として持続的・自律的な賑わい・支え合いを創出していくためには、多様な方々が寄り合って様々な活動を支えることが重要であり、地元の関係者や事業の実施主体となり得る団体を巻き込んだ展開が必要である。このため、天理駅周辺地区の地域活性化に取り組む連携組織「天理駅周辺地区まちづくり協議会」を引き続き開催していく。

天理駅周辺地区まちづくり協議会

- ・天理駅周辺地区を人が集い、憩うことのできるにぎわいある空間にすることを目指し、住民、関係機関及び市の職員が専門家の助言を得て具体的な協議・検討を進め、諸課題を解決し、活性化プロジェクトを実施するため組織。
- ・メンバーは、まちづくりの観点に加え、発展させていく「天理駅前広場コフン」に係わる多様な主体からなるメンバー。
- ・「まちづくり協議会」の会長は天理市長。「天理駅前広場コフン」を活用した賑わいづくり（イベント等）を考え、継続して実施するとともに、「天理駅前広場コフン」でできた賑わいを、周辺地区にも波及させていく。

天理駅周辺地区まちづくり協議会

天理駅周辺地区の賑わいづくりのため、多局的・多角的な視点から方向づけ、意見調整、情報共有をする場

委員

【駅周辺事業者】

天理市商工会
川原城商工連盟
三島商工連盟
天理市本通り商店街協同組合
天理市三島本通商店街協同組合

【交通事業者】

近畿日本鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社

【文化芸術関係者】

天理第九実行委員会

【関係事業者】

天理大学・モンベル共同体

【公共関係者】

天理教教会本部
天理警察署
天理市区長連合会
三島町
川原城町
天理市議会
奈良県（なら歴史芸術文化村、まちづくり推進課、豊かな食と農の振興課）
天理市



8 基本計画の目標に対する事業効果（K P I）について

基本計画の目標に対する事業効果（K P I）の設定については、「天理市総合計画」、「天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等関連計画で設定している事業効果（K P I）との整合性を図りながら、適切な評価指標及び目標値を設定する。

基本計画における取り組みの方向性	重要業績評価指標	基準値 (H30年度)	1期目標値 (R5年度)	1期実績値 (R5年度末)	評価	2期目標値 (R10年度)
なら歴史芸術文化村を活用した取り組みの推進	なら歴史芸術文化村と連携した文化イベント開催数・集客数	—	30件 2,000人	32件 10,143人	なら歴史芸術文化村と連携して、積極的に文化財関係イベントを開催して集客を図った。開村直後に来客が集中していた状況に比べると数値は落ち着いたが、市外・県外からの集客が8割を超えている状況は変わらない。今後も市の歴史文化遺産の魅力発信に取り組んでいく必要がある。	30件 10,200人
継続的な賑わい・魅力の創出	天理駅前広場を活用したイベントの開催数、集客数	406件 30,385人	540件 20,000人	484件 19,928人	新型コロナウイルスが5類に移行されたことに伴い、マルシェや音楽イベントなど多くのイベントが開催され、大きな賑わいを創り出すことができた。新たに、天理大学・(株)モンベル共同事業体と連携した事業を進めることで、今後、この賑わい・支え合いの好循環の流れを継続的なものとし、県内全体に波及させることを目指す。	540件 35,000人
	Art-Space TARNの来場者数	1,938人	4,000人	2,917人	Art-Space TARNにおいて、県と連携した事業など行い、周知が広まり固定の利用者もできてきた。市展などの事業の変更で、実績値としては減少しているが、一般の利用者数は横ばいである。更なる周知・広報を図り、多世代が芸術文化と触れ合い交流できる活動の場を維持していくとともに、芸術文化エリアの賑わいづくりにつながる取組みが必要である。	4,500人
つながりと支え合いのまちづくり	地域全体でお互いに支え合い助け合う機会や仕組みが充実していると思う市民の割合	32.9% (R1年度)	38.5%	41.1%	令和3年度以降、地域の支え合いが充実していると感じる市民は40%を超えている。天理市生活支援サポーターやハローパートナーシップメンターなどのボランティア養成が進み、地域住民の支え合い活動が推進されてきた。今後もボランティア養成を進めることで、住み慣れた環境で安心して暮らせる支援体制づくりや結婚応援を入り口とした相談活動に取組み、地域の支え合いの更なる充実を目指す。	52%

基本計画における取り組みの方向性	重要業績評価指標	基準値 (R5年度)	2期目標値 (R10年度)
継続的な賑わい・魅力の創出 なら歴史芸術文化村を活用した取り組みの推進	観光消費額	85,000,000円	200,000,000円

